

the People

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)
2011年 11月発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田 恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字本町11-1
まちづくりステーション小名浜内
TEL/FAX：0246-52-2511
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
URL：http://www.iwaki-j.com/people/

3.11東日本大震災からの再生

小名浜地区交流サロン 開設



本会が中心となり8月に開設した「小名浜地区復興支援ボランティアセンター」では、小名浜地域包括支援センター、いわき市社会福祉協議会小名浜地区協議会といった被災者支援に関わる各組織と共に、小名浜地区に住む被災者の方たちに対する支援事業を立案し、進めています。

まず、地区内の県営雇用促進住宅に入居している被災者の方々を対象に、自由に参加して交流していただく為の支援サロンを、9月から集会所を会場として定期的開催してきました。この支援サロンには、地域外から被災者を力づけようとやって来てくださるマッサージやヘアカットといった専門技能を持つボランティアの方々も力添えして下さり、足を運んでくださる方の数が回を追って増えてきています。被災者支援の取組みが少しずつ必要としておられる方の元へ届き始めたとの手応えを感じられるようになってきました。



一方、民間アパートにバラバラに住み始めておられる被災者の方々の元には十分に手が届いていないのでは…という懸念が残りました。介護保険の関係で、地区内の65歳以上の方のいるお宅を一軒一軒訪問している包括支援センターの皆さんからも同じ心配が語られました。「自分たちは取り残されている。忘れ去られている…」そんな孤独感を抱くことが無いように、少しでも交流が持てるように…。そんな願いを込めて、10月初旬には、小名浜公民館と泉公民館を会場としてミニ交流会が催されました。



お招きしたのは、震災後いわき市からの一次提供住宅として地区内の民間アパートに入居しておられる被災者のうち高齢者の方々。2回で60名ほどの参加があり、いわき市泉町出身の講師神田香織さんをはじめとするNPO法人「ふくしま・人と文化ネットワーク」の方々による話芸や歌とお茶を飲みながらのおしゃべりを楽しんで帰られました。

こうした交流の場を、一時的なものではなくいつでも誰でも集えるような形に出来ないものかと考え、私たちは小名浜地区のショッピングセンター、タウンモールリスポの2階の空き店舗を利用して、「小名浜地区交流サロン」を11月13日に開設しました。

生活情報や支援情報の提供。小名浜地区民生児童委員の皆さんなどの協力による相談コーナー。ザ・ピープルのスタッフが講師を務める手編みや布ぞうり作りといった手芸教室。絵本やおもちゃが並ぶキッズコーナー。そして何よりお茶と楽しいおしゃべりのできる場。…これが私たちの作ろうとしている交流サロンです。地域の区長会とも連携することになっています。(営業時間は午前10:00から午後4:00まで。定休日は水曜日)

オープン当日には、江東区から駆けつけてくださった「たつみ皆援隊」の皆さんによる和太鼓と日本を代表するチェリストの丸山泰雄さんの演奏がオープニングセレモニーに花を添えて下さいました。

そして、もう一つ。3.11大震災後、これまでに世界30国からはがきサイズの応援メッセージを1300枚以上集めた「YOU プロジェクト」のメールアート「あなたへ あなたと」がサロンの壁面を飾ってくれています。

被災者に限らず地域の方々も是非この交流の輪に加わってください。



つばき

出会い ②

震災以降数多くの出会いがあった。今回の震災で特に福島原発の事故により町全体が避難を余儀なくされた広野町。父の実家はこの広野町の亀ヶ崎。田園風景が広がる美しい山村である。そこには小学校入学前までの2年間住んでいた。8キロ離れた町に移ったのは1年生の時。沢山の友達に恵まれたのが嬉しかった。学生時代。初めて買ったのが懐かしき故郷である。▼復興支援活動に取り組みな心はどのようにも広野町に向かった。それだけに広野町にまつわる出合いが多い。最初に訪問したのは、いわき市中央台に建設された仮設住宅。小学生が数人遊んでいたのを掛けた。「僕たち何年生だ」「一年生だよ」「おぼさんも広野小学校にいたんだよ」「エイっ」と、のけぞり、笑いながら駆け出しに行った。両親にでも伝えるためか、私をお化けとも思ったのかしら。微笑ましくなると「またね」と手を振った。▼次にイベント提供の打ち合わせのため、湯本町の仮設住宅を訪ねた。住宅前にいた小柄な男性に声を掛けると、快く集会所に案内して下さいました。その方は、どこかでお会いした事があるような何とも懐かしい感じのする方だった。頭を巡らすも思い出せない。気になって仕方ないので「何処かでお会いしてますよね」と話しかけてみた。「ヤ、知らねな」と素直に返事。そこで思い切って「私17年生まれなんですけど」と言うと「俺も生か来た。そして驚いたことに「4年生のとき渡辺先生だったぞ」。もう間違いない。「わたし、渡辺かほる」と名乗った。「オメー、うんとチビだったよな」当時、確かに大病をして半年間も休学するほどだったからそう見えたのかも。赴任し最初に担任したのが4年1組だった。私の名前を読み上げた。「先生と同じだね」と微笑んで下さった。もう毎日嬉しくて勉強が大好きになった。余りの偶然にクラス中が揺れ動いた感じだった。そして「オメー、勉強できたよな」と嬉しい事を思い出して下さった。▼5年生になって父の転勤で湯本町に転居。以来同級生と音信は途絶えてしまった。それはだけに60年近い時を経ての出会いは驚きというより感動だった。面影と感激さめやらぬ思いで、次に集会所の責任者と面会。その方は同級生Yさんの弟さんだった。Yさんは何時も優等生で全学年の美人さんだった。教員にならなれ小学校の校長先生で退職。今は福島市で充実の人生を過ごされている近況を伺った。人生、元気で生きています。私に会いはまだまだありそうだと呟いた。